

2024年9月11日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～新潟にて海事施設の見学会を開催～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船をはじめとする海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、北陸信越海事広報協会等とともに、新潟国際貿易ターミナルおよび日本海エル・エヌ・ジエの協力を得て、9月11日（水）に新潟市立青山小学校の5年生60名を対象にコンテナターミナルおよびLNG新潟基地（車窓）の見学会を開催しましたのでその様子をお知らせします。

【見学会概要】

コンテナターミナルでは、児童は2班に分かれて、①管理棟屋上からコンテナターミナル全景を見学、②会議室にて海運業についての説明を受ける、③バスにてコンテナターミナル構内を見学、を夫々実施しました。

その後、日本海エル・エヌ・ジエのLNG新潟基地に移動し、担当者の方から説明を受けながら、④LNG新潟基地内をバス車内から見学しました。

① 管理棟屋上からのコンテナターミナル見学

多くの児童にとっては、港やコンテナを見るのが初めてのことだったため、荷役中のコンテナ船を見た児童たちは多くのコンテナが綺麗に積まれていることに驚いている様子でした。「空のコンテナの重さはどれくらいなの？」という質問や、「コンテナが大きくてびっくりした」という感想が聞かれました。



コンテナターミナルを眺める児童たち



荷役作業を見学する様子

② 弊協会の出前授業を実施

日本は身の回りの多くの物を海外からの輸入に頼っており、日本にとって不可欠な海外との貿易量の 99%以上を海運が担っていることを説明しました。また、新潟港でのコンテナ貿易に触れながら、コンテナ船やコンテナで運ぶ荷物についても解説し、児童たちは真剣にメモをとりながら聞いていました。

授業後には「普段みている服や食べ物が、船で運ばれてきているとわかって面白かった」「自分たちの暮らしが、たくさんの人に支えられていると感じた」等の感想が寄せられたほか、「船は武器を積んでいるのか、攻撃されたらどうするのか」といった鋭い質問も出るなど、海運に興味を持ってくれた様子でした。



出前授業の様子

③ バスでのコンテナターミナル構内見学

巨大なガントリークレーンでコンテナ船の荷役をしている迫力のある様子や、ストラドルキャリアがトレーラーにコンテナを積み卸す様子を間近で見るなど、普段立ち入ることができないエリアで貴重な経験することができました。



荷役作業中のガントリークレーン

④ LNG 新潟基地内をバス車内から見学

コンテナターミナル見学後は、LNG 新潟基地に向かい、日頃何気なく利用している電気やガスの元となる LNG が外国から船で輸入されていることや、気体の天然ガスを冷却して液体にすることで体積を減らし、より多くのガスを効率的に輸送していることを学びました。バスで基地を一周し、車内から LNG 船が着積する栈橋や、ガスが通るパイプラインを見学しました。



海上にある栈橋から続くパイプライン設備

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

以上